

「学生観光論文コンテスト」を包括した

「ナショトラ・コンテスト」の提案

高崎経済大学 地域政策学部 観光政策学科

味水ゼミ2年チーム OZE～俺たち全力でええかんずい～

栗城ひとみ・後藤泰樹・鈴木麻以・奈良朋美

要旨

現状におけるナショナル・トラスト活動には、「十分に活動が行われていない」「人々の活動に対する知識、内容理解が不十分である」「それに対する関心が薄いのではないか」という問題点がある。そこで本論文では、コンテストの有用性を考察しつつ、唯一ナショナル・トラスト活動を取り扱っているコンテスト「学生観光論文コンテスト」に着目し、それを包括した新たなコンテスト「ナショトラ・コンテスト」を提案した。

Key Words: 学生観光論文コンテスト、ナショナル・トラスト活動、レーダーチャート、NTC

1. はじめに

1.1 ナショナル・トラスト活動

ナショナル・トラスト活動とは、「かけがえのない地球環境を無秩序な都市化や野放図な開発から守り、自然環境や貴重な歴史建造物を後世に残していこうとする市民運動」のことであり、市民や企業から寄付金をもらい、自然地や歴史的な建物を買い取る、または寄贈や遺贈を受けることにより、全ての人々のために永久に守っていくといった活動をしている。現在日本では、全国50以上の地域で活動の輪が広まり、「公益社団法人日本ナショナル・トラスト協会」は、その全国的なセンター組織として存在している。また「学生観光論文コンテスト」はその活動を促進させるもののひとつである。

1.2 問題意識

現状におけるナショナル・トラスト活動の問題点として、「ナショナル・トラスト活動が十分に行われていない」ということが挙げられる。現在、「公益財団法人日本ナショナル・トラスト」は会員からの会費収入と、運輸・観光関係企業等からの事業賛助金によって活動を進めている。しかし、これに関して協会は「これら会費収入や企業賛助金収入の総額は、財団の活動運営を支え

るには十分な額になっていない(公益財団法人日本ナショナル・トラスト 2008)」と述べている。

他に、「人々のナショナル・トラスト活動に対する知識、内容理解が不十分である、またそれに対する関心が薄いのではないか」という問題点がある。それによって、ナショナル・トラスト活動によって保護すべき場所があっても、そこに住む地域住民がその魅力を十分理解していない、または見出せず、なかなか活動が進まないところもある。例えば、群馬・栃木・福島・新潟の4つの県にまたがる「尾瀬国立公園」がある。東京電力の調べによると、現在、公園全体の約4割、特別保護地区の約7割を東京電力が保有している状況にあり、将来的な管理体制等を考えれば、ナショナル・トラスト活動によって保護すべきではないかと考えられる。しかし、人々の関心の薄さなどもあり、何も進展していないというのが現状である。

以上より、ナショナル・トラスト活動にはまだまだ改善すべき点があると言える。

2. 仮説

2.1 仮説の設定

以上の問題を解決するために、本論文の仮説を『学生観光論文コンテスト』を包括した新たなコンテストを行うことで、ナショナル・トラスト活動をより促進させることができる」と設定する。

2.2 なぜコンテストか

2.2.1 コンテストの有用性

まず、なぜコンテストに注目したかを述べるにあたり、その有用性に触れていきたい。コンテスト情報ポータルサイト「登竜門」によると、コンテストは「広く世の中に問いかけて、ある反応を期待する双方向コミュニケーションであり、『懸賞』『プレゼント』『制作の外部委託』等とは異なる、独自の面白さがある問題解決方法」と定義される。このコンテストは、「アイデア、デザインが欲しい」「継続的にパブリシティを獲得したい」「数多くの提案を比較したい」「ロコミを作りたい」「参加型の企画にしたい」「有望なパートナーを開拓したい」などといった課題を抱えている場合に有効的な手段となる。またコンテストを実施することには3つの効果がある。それは「①コンテストの面白さの本質は競争することであるため、トレンドに左右されず長持ちする手法であり、面白さによる内部のモチベーションアップが図られること」、「②長く深く確実なコミュニケーションの広がり確立できること、参加者との繋がりが強化され、低い離脱率で興味を持った人や参加者のロコミによる拡散が期待できること」、「③情報誌での告知・結果記事、発表イベント、記者会見等のパブリシティ獲得のためのコンテンツであるため、応用や拡張ができること」である。

2.2.2 コンテストとナショナル・トラスト活動

ここでは、2.2.1節に述べたコンテストのもつ有用性に着目し、ナショナル・トラスト活動に結びつけて考えていきたい。そもそもナショナル・トラスト活動とは、1.1で述べたとおり、募金・寄付活動やボランティア活動によって自然地や歴史的な建物を買い取り管理し、永久に守ってい

くことを目的としているため、これらの活動を一人で推し進めていくことは難しい。そのため、賛同してくれる大勢の仲間や協力者の存在が必要である。また、買い取った土地を管理していくに当たり、継続的な活動体制も必要なことだ。さらに、広報活動によって全国に広く知らせることはナショナル・トラスト活動にとって重要なことである。これらの必要条件は、前節で述べた3つのコンテストの効果により満たされると私たちは考える。

以上のことから、ナショナル・トラスト活動を促進させるためには、前節で述べたコンテストのもつ有用性は有効な手段であると言える。

2.3 なぜ「学生観光論文コンテスト」なのか

2.3.1 「学生観光論文コンテスト」の可能性

次に、「学生観光論文コンテスト」に注目した理由を示す上で、その実態と現状に関して述べていきたい。今年で第2回目を迎えた「学生観光論文コンテスト」は、「将来の観光業界のリーダーとなる若者の育成を通じて、日本政府ならびに観光庁の観光政策をサポートすること」を目的とし、「財団法人日本ホテルセンター」が主催となって行っているものである。学生に早い段階から観光事業に対する興味関心を高め、大局から業界を見つめる視点を養うことや観光立国実現のサポートとして「なすべきことは何か」を考えさせることを求めている。コンテストには「A. 観光立国で日本を元気にする方策について、私の提案」、「B. 観光資源保護におけるナショナル・トラスト活動の役割について、私の提案」、「C. 新しい東北観光の在り方とその波及効果について、私の提案」という3つのテーマが設定され、様々な提案を募集している。そして、テーマBに関しては、このコンテストはナショナル・トラスト活動をテーマとして取り上げている唯一のコンテストである。またコンテストの内容や実態に関しても、ナショナル・トラスト活動をより促進させるものである。そのため、私たちは「学生観光論文コンテスト」がこれからのナショナル・トラスト活動を考える上で重要なポジションを担うと考えた。

2.3.2 「学生観光論文コンテスト」の考察

まず、「学生観光論文コンテスト」は、理論的かつ客観的な視点が必要な論文を用いており、またテーマに「日本を元気にする」「観光資源保護」「東北」などの時事的なキーワードを扱っている。さらに観光インフラとしての自然景観や貴重な文化財・歴史的環境などを保全する何らかの施策を提案することは、高度で専門的な知識や分析を必要とするため、個人の成長が図れる。これらのことは、このコンテストの評価すべき点である。

一方、改善点として、情報発信不足による人々の認識の薄さがある。またコンテストをするにあたり特別な援助が見られないため、参加者に対するバックアップが不足していると考えられる。

この詳細に関しては、3.3.2節でリーダーチャートを用いて再び述べる。

3. コンテスト研究

3.1 様々なコンテストの考察

2.3.2節に挙げた「学生観光論文コンテスト」の評価点を残しつつ改善点を補うために、他の様々

なコンテストで採用されているアイデアや形式を調べ、考察し、表1にまとめた。

表1 様々なコンテストの考察

コンテスト	目的	参加の資格	対象	学生対象	公開性	賞金・賞品・特等	スポンサー	メディアの露出	社会的な評価	パブリシティ	個人の成長	継続性
1 Anablogコンテスト2012 Summer	○	○	○		○	○					○	○
2 APMコンテスト～未来を創る成長する～	○				○		○	○	○	○	○	
3 岡山大学の学生アイデアコンテスト	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	
4 小川南明大卒業	○					○	○				○	○
5 藤田女子大コンテスト	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	
6 札幌大コンテスト2012	○	○			○		○				○	
7 学生アイデアコンテスト2012北海道編	○		○		○	○		○	○	○	○	
8 学生起業家コンテスト	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
9 学生起業コンテスト	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
10 京都大バリエーションコンペティション	○		○		○	○	○					
11 京都への窓	○	○						○	○	○		○
12 京都大学 BEST OFFER	○		○	○		○	○	○	○			
13 国際学生起業家コンテスト2012	○		○		○	○		○	○	○	○	
14 国際学生起業家コンテスト	○		○		○	○		○	○	○	○	
15 島村康雄 株式会社	○	○	○	○	○	○		○	○			○
16 島根大・経済デザインコン	○						○	○	○			
17 学生起業家アイデアコンテスト	○	○	○	○		○				○	○	
18 藤田女子大コンテスト	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
19 全国学生起業家コンテスト2012	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
20 全国学生起業家コンテスト	○		○		○	○						
21 大学別学生起業コンテスト	○		○			○	○	○	○	○	○	
22 岡山大学学生起業コンテスト	○							○	○	○		
23 経営学部コンテスト	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
24 学生起業家コンテスト	○		○		○	○	○	○	○	○		
25 個人起業コンテスト	○	○	○	○	○			○	○	○	○	○
26 映画 京大コンテスト		○			○			○	○	○		
27 映画 藤田女子大コンテスト		○	○	○	○	○		○	○	○	○	
28 学生起業家コンテスト	○		○		○	○	○	○	○			○
29 パッケージコンテスト	○		○	○	○	○	○	○	○			
30 学生起業家コンテスト2012	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
31 FACE 2012 横浜シビック 県府賞	○	○				○				○		
32 学生起業家コンテスト2012	○		○		○	○				○	○	○
33 藤田女子大 コンテスト	○							○				
34 学生起業家コンテスト2012	○							○				
35 学生起業家コンテスト	○				○	○	○	○	○	○	○	
36 学生起業家コンテスト	○				○	○	○	○	○	○	○	
37 学生起業家コンテスト	○				○	○	○	○	○	○	○	
38 学生起業家コンテスト	○	○	○	○	○	○			○	○	○	○
39 学生起業家コンテスト	○							○		○	○	
40 学生起業家コンテスト2012	○	○			○			○				
41 リーダーシップコンテスト	○				○			○				
42 ロハス コンテスト	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
43 ロハスコンテスト	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	

コンテスト	異文化	国際規模	世界規模	社会的影響・社会問題	IT/デジタル	学術的	芸術的	語学的	科学的	音楽的	スポーツ	その他	時期	評価
1. 学芸大コンテスト2019 Summer	○	○						○	○					
2. 21世紀のコンテスト〜未来を創る 創造力大賞	○			○				○	○					○
2. 岡山県立大学学生アイデアコンテスト														○
4. 21世紀未来大賞				○			○							
5. 豊田大学コンテスト				○										
5. 未来のコンテストアワード							○					○		○
7. 学生アイデアコンテスト2019秋 東海大学				○	○	○		○	○					
8. 学生観光論文コンテスト	○			○		○								○
9. 学生100コンテスト	○	○		○			○	○	○	○			○	
10. 東海大学文化コンテスト2019秋	○							○	○					○
11. 東海大学の未来				○									○	
12. 21世紀の未来 2019 (21世紀)	○	○		○	○									
13. 豊田大学の未来 豊田大学 2019秋	○	○		○	○				○					
14. 岡山県立大学学生アイデアコンテスト	○			○		○								
15. 豊田大学 豊田大学コンテスト	○	○		○	○									
16. 豊田大学 豊田大学コンテスト	○			○					○	○				○
17. 1年全日本学生アイデアコンテスト		○		○					○	○				
18. 豊田大学 豊田大学コンテスト	○	○		○	○				○	○			○	○
19. 豊田大学 豊田大学コンテスト【観光大賞】									○	○				○
20. 豊田大学 豊田大学コンテスト	○			○										
21. 大分県立大学学生アイデアコンテスト			○	○	○									○
22. 21世紀の未来 豊田大学 豊田大学コンテスト			○	○	○			○	○	○				
23. 21世紀の未来 豊田大学 豊田大学コンテスト	○	○		○	○			○	○	○				
24. 豊田大学 豊田大学コンテスト	○	○		○	○									○
25. 豊田大学 豊田大学コンテスト	○	○		○	○						○			○
26. 豊田大学 豊田大学コンテスト	○	○		○	○								○	
27. 豊田大学 豊田大学コンテスト				○	○				○	○				○
28. 豊田大学 豊田大学コンテスト	○	○		○	○				○	○				○
29. 豊田大学 豊田大学コンテスト	○	○		○	○				○	○				○
30. 21世紀の未来 豊田大学 豊田大学コンテスト	○	○		○	○				○	○				
31. 21世紀の未来 豊田大学 豊田大学コンテスト	○	○		○	○				○	○			○	
32. 21世紀の未来 豊田大学 豊田大学コンテスト	○	○		○	○				○	○				○
33. 豊田大学 豊田大学コンテスト	○												○	
34. 豊田大学 豊田大学コンテスト	○	○		○	○				○	○				○
35. 豊田大学 豊田大学コンテスト	○	○		○	○				○	○				○
36. 豊田大学 豊田大学コンテスト	○	○		○	○				○	○				○
37. 豊田大学 豊田大学コンテスト	○	○		○	○				○	○				○
38. 豊田大学 豊田大学コンテスト	○	○		○	○				○	○				○
39. 豊田大学 豊田大学コンテスト	○	○		○	○				○	○				○
40. 豊田大学 豊田大学コンテスト	○	○		○	○				○	○				○
41. 豊田大学 豊田大学コンテスト	○	○		○	○				○	○				○
42. 豊田大学 豊田大学コンテスト	○	○		○	○				○	○				○
43. 豊田大学 豊田大学コンテスト	○	○		○	○				○	○				○
44. 豊田大学 豊田大学コンテスト	○	○		○	○				○	○				○

出所) 筆者作成

その際、コンテストの対象者、目的、スポンサーやコンテストによって得られる賞金、賞品、称号等に注目した。その結果、各コンテストがそれぞれオリジナリティを持って様々に異なっていると同時に、一方で成功しているコンテストに共通してある事柄の存在も確認できた。

そこで、「学生観光論文コンテスト」やその他様々なコンテストの考察により発見された評価点・改善点と、ナショナル・トラスト活動を促進させるために必要な事柄を考慮して、6つの要素を導き出した。それは「面白さ・斬新さ」「社会的問題・影響」「情報発信」「バックアップ」「個人の成長」「継続性」である。それらの定義、導き出された理由に関しては次節で述べていく。

3.2 コンテストに必要な要素

・「面白さ・斬新さ」

ここでの「面白さ・斬新さ」とは、「そのコンテストによって生み出されるものがこれまでにないもの、個性あふれるもの、インパクトのあるもの、ユニークなものなどであるか」ということである。この面白さによって人々の興味を高め、心を惹かせることは、人々にナショナル・トラスト活動に対する関心を持たせるために必要なことである。また、コンテストで参加者が互いにより質の高い、あるいは新しいものを求めて競い合うことは、より斬新で新しいアイデアを生み出すことにもつながる。他に、「面白さ・斬新さ」はそのコンテストのもつ個性が一番よく表れる点であり、他のコンテストと差別化を図るためにも重要な要素のひとつであると考えられる。

・「社会的問題・影響」

ここでの「社会的問題・影響」とは、「人々の関心が集まる話題や、社会にとって良い影響を与えるものか」ということである。現状として、ナショナル・トラスト活動には人々の関心の薄さや資金面などの問題があり、これを解決するためには2.1.2節、2.2.2節で述べたように、コンテストは有効な手段である。加えて、そのコンテストの内容が人々の関心を集まるものであればあるほど、より有効的であると考えられる。

・「情報発信」

ここでの「情報発信」とは、「コンテストの情報をどれだけ人々に伝えられているか、またHP等の広告・宣伝のクオリティはどうか」ということである。社団法人日本ナショナル・トラスト協会の『ナショナル・トラストの手引き』によると、活動を成功させる段階のひとつとして「広く知らせる」というものがある。これには「ナショナル・トラスト団体には出場者や地権者、会員だけではなく、広く大勢の人々に対して自分たちの活動を説明する責任や、情報を公開する義務がある」ということが示されている。加えて、地域の人々の活動に対する認識の薄さという問題意識から、情報を発信する、または広がる何らかの手段を講じることも必要であると考えられる。

・「バックアップ」

ここでの「バックアップ」とは、「主催者がコンテストの参加者に対して、コンテストをより良いものにするための技術の提供やサポートをどれくらい行っているか」ということである。「バックアップ」の内容として、コンテストの参加者に技術提供をすることや、知識・理解の向上のために主催者側が講義の開催、実質調査を行うための機会を提供することがある。また、受賞後に、個人のもつ能力を上げて将来を担える人材育成を行うために、技術提供も行うものもある。また、成功しているコンテストにはバックアップ体制がきちんと整っていることが様々なコンテストの考察により明らかになった。

・「個人の成長」

ここでの「個人の成長」とは、「コンテストに参加することによってナショナル・トラスト活動の知識や理解を深め、そして個人のもつ能力を上げられるか」ということである。私たちはコンテストを通してナショナル・トラスト活動の発展だけでなく、それをきっかけとして個々人の成長ができると考える。そのため、ナショナル・トラストに関連したコンテストに参加してもらい、そこからのアイデアを活かして活動の活性化につなげ、より良いものを作ることができるので、一方的なもので終わらせない努力を心掛ける必要があると考える。

・「継続性」

ここでの「継続性」とは、「コンテストが将来的にも可能性・発展性が期待でき、短い期間ではなく、10年、20年の長い期間で行えるかどうか」ということである。ナショナル・トラスト活動を継続して行うことにより、自然を保護することや生態系の維持や、由緒ある歴史的建造物の保護、そして将来の子どもたちのために豊かな自然の継承することにつながる。そのため継続可能なコンテストを行うことによってナショナル・トラスト活動も継続できると考える。

3.3 コンテストの分析

3.3.1 評価基準

以上の理由より、これら6つを要素として分析していく。本論文では、複数のデータをひとつのグラフに表示することにより全体の傾向を捉え、また一目見て特徴を掴めるようにするため「レーダーチャート」を用いることとする。評価基準は表2である。

表2 評価基準

1	2	3	4	5
全くできていない	あまりできていない	できている	よくできている	かなりできている

出所) 筆者作成

3.3.2 「学生観光論文コンテスト」の分析

以上に述べたことを踏まえ、まず「学生観光論文コンテスト」をレーダーチャート化した。以下の図1がそれである。またその評価の根拠についても、要素ごとに順に述べていきたい。

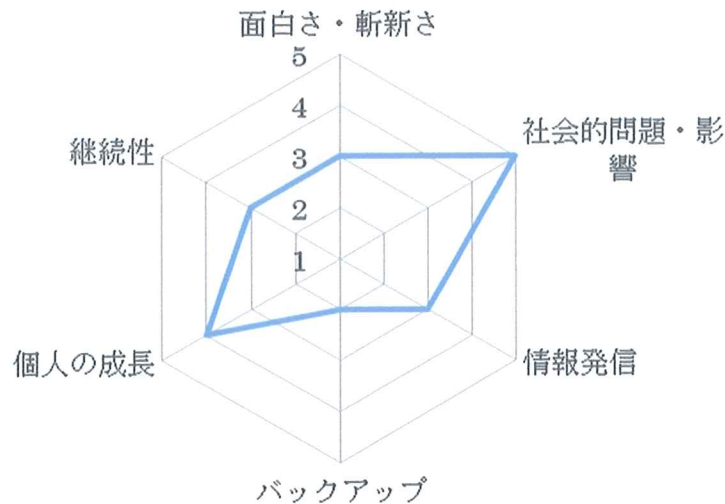


図1 「学生観光論文コンテスト」

出所) 筆者作成

・「面白さ・斬新さ」

コンテストが論文形式であり、より論理的・客観的なものを求めているため、そこに面白さや斬新さを見出すことが難しい。また特にそこに重点を置いていないため、評価を3とした。

・「社会的問題・影響」

テーマのひとつである「C. 新しい東北観光の在り方とその波及効果について、私の提案」は、現在東北各地を会場として開催されている「東北観光博」(2012年3月18日～2013年3月31日)を応援するために設定されており、社会や人々が興味や関心を抱いている時事的な問題を取り扱っており、より効果的で実践的なアイデアが生み出されることも期待できるため、評価を5とした。

・「情報発信」

今年で第2回目の開催である「学生観光論文コンテスト」は、認知度がまだそれほど高くないのが現状である。またHPなどでコンテストの意義や目的、その他内容の詳細を積極的に人々へと情報発信をしておらず、コンテストに対する注目が集まっていないため、評価を3とした。

・「バックアップ」

コンテストの参加者が論文をコンテストに提出するまでの過程におけるサポート体制が特になく、学生から出たアイデアや成果を実践的に実現化していないため、評価を2とした。

・「個人の成長」

論文を書くことは、論理的かつ客観的視点を培うことを可能とする。また観光インフラとして

の自然景観や貴重な文化財・歴史的環境などを保全する施策に関する提案するにあたり、それにふさわしい情報や資料を選別する力を養えるため、評価を4とした。

・「継続性」

「学生観光論文コンテスト」を継続して行えるか、今後人々からの支持が得られるのかが分からない状況にある。また論文という形式であるため、人々に与えるインパクトが弱いと考えたため、評価を3とした。

3.4 その他のコンテストの分析

次に、他のコンテストも先の「学生観光論文コンテスト」と同様に分析・評価し、レーダーチャートで表し、またその評価の根拠についても順に述べていく。なお、本論文を作成するに当たり私たちは様々なコンテストを考察したが、ここでは4つ抜粋した。また、根拠についてだが、高評価である4と5の評価をした要素についてだけ述べ、3以下の評価をした要素に関しては省略する。

3.4.1 「岡山まちの夢 学生アイデアコンテスト」

「岡山の街がもっと楽しくなるよう、街の中心部や商店街などに人が集まる仕掛けや、地元にあるものを再発見し活用して新たな魅力をつくる」ことを目標に掲げているコンテストである。対象は高校生、大学生で、テーマは自由である。

・「社会的問題・影響」

ワークショップやバスツアーによって、岡山県内の街の現状や課題について現場の人に直接聞くことができ、情報提供や意見交換などを行えるため、評価を4とした。

・「バックアップ」

コンテストに応募したいが、具体的にどのように進めていくべきかと悩んでいる者に対してワークショップやバスツアーを行っているため、評価を5とした。

・「個人の成長」

ワークショップやバスツアーを経験することにより、地域の現状や課題を発見・分析し、その上で将来を見通した構想を描くことを重視しているため、評価を4とした。

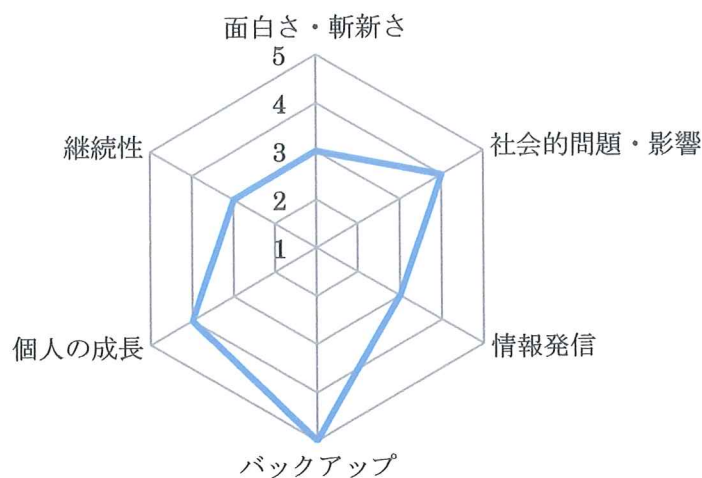


図2 「岡山まちの夢学生アイデアコンテスト」

出所) 筆者作成

3.4.2 「面白ビジネスアイデアコンテスト」

従来のビジネスコンテストとは異なり、ビジネス規模にはこだわらず、今までに存在しない、人々がワクワクするようなビジネスを増やすことで、世の中をもっと面白くすることを目指しているコンテストである。対象は大学・大学院・短期大学・専門大学に在籍するすべての学生で、希望者のみビジネスアイデア実現のための支援などがある。

・「面白さ・斬新さ」

面白いアイデアを求めており、またそれを積極的に作り出すために初対面の人とチームを結成という形式であるため、評価を5とした。

・「バックアップ」

コンテストの中に、主催者が「キックオフイベント」というブレインストーミングを行う場を設けている。また提案だけにとどまらず、それを実現するための支援をしてくれるため、評価を5とした。

・「個人の成長」

ブレインストーミングやプレゼンテーションにより、アイデアを連想させる力や相手に簡潔に伝える力が養えるため、評価を4とした。

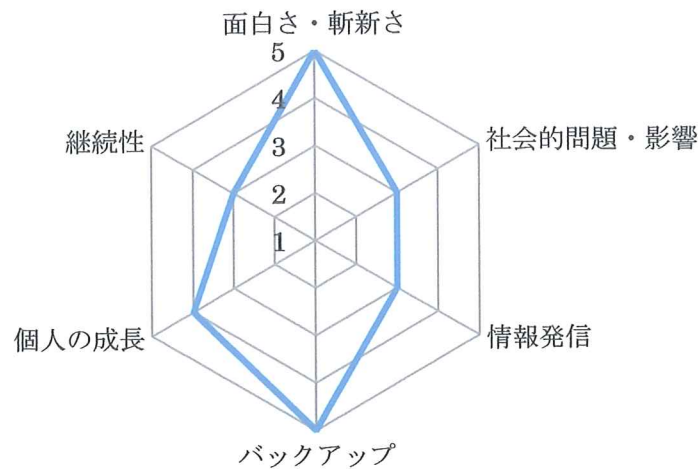


図3 「面白ビジネスアイデアコンテスト」

出所) 筆者作成

3.4.3 「観光甲子園」

これは地域をアピールし、実際に商品化をめざすことのできる「地域観光プラン」を募集するコンテストである。対象は高校生で、テーマは地域振興のための地域を題材とした観光（集客）プランの提案である。なお、グランプリ作品は実際にツアーとして商品化され、プランが実現されている。

・「面白さ・斬新さ」

高校生ならではの豊かな発想力による観光プランを数多く募ることができ、さらに高校生のアイデアが実際にツアーとして商品化されていることが他のコンテストにはみられなく斬新であるため、評価を4とした。

・「社会的問題・影響」

「観光立国日本」を担う人材育成を目指す試みがあり、観光プランの評価の視点に「地域魅力が効果的に盛り込まれ活性化するプラン」になっているという項目があり、波及効果等も考慮しているため、評価を4とした。

・「バックアップ」

グランプリの作品が実際に忠実に商品化され、さらにそのことが高校生の将来への希望へとつながり観光人材の育成になるため、評価を5とした。

・「個人の成長」

このコンテストを通して、高校生がさまざまな分野との関わりの中で観光に対する視点が育まれ、また実際に行って見て調べ、仲間と議論し地域の様々な人と協力しながら創造する力がつく。加えて、本選のプレゼンテーション形式によるプランニングは、個人の成長の場として大いに期待できるため、評価を4とした。

・「継続性」

このコンテストが将来の観光産業を担う人材の育成のきっかけとなり、継続的に開催することでさらなる観光人材の発掘につながると考え、評価を4とした。

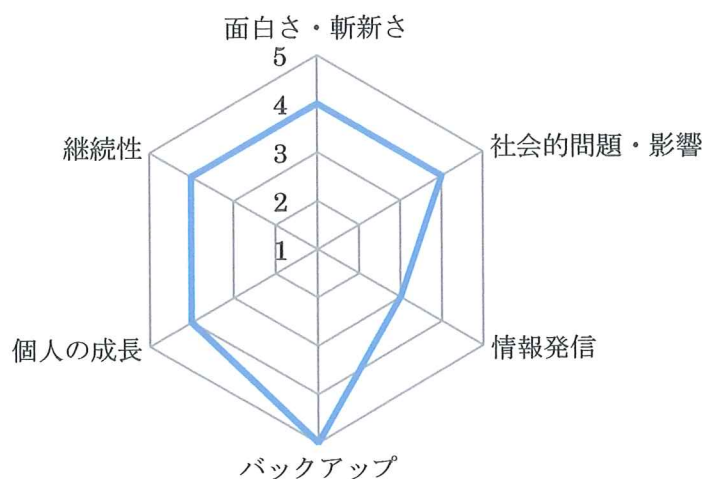


図4 「観光甲子園」

出所) 筆者作成

3.4.4 「書道パフォーマンス甲子園」

伝統文化としての書の本質を磨きながら、新しい書の魅力を探求することによって、新文化の創造発展に寄与することを目的とするコンテストである。対象は高校生で、「書道パフォーマンス」が見どころである。

・「面白さ・斬新さ」

10人程度でチームを組み、4メートル×6メートル四方の巨大な紙の上を流行の音楽に合わせて手拍子やダンスを取り入れながら書道をするという新しいスタイルを提案しているため、評価を4とした。

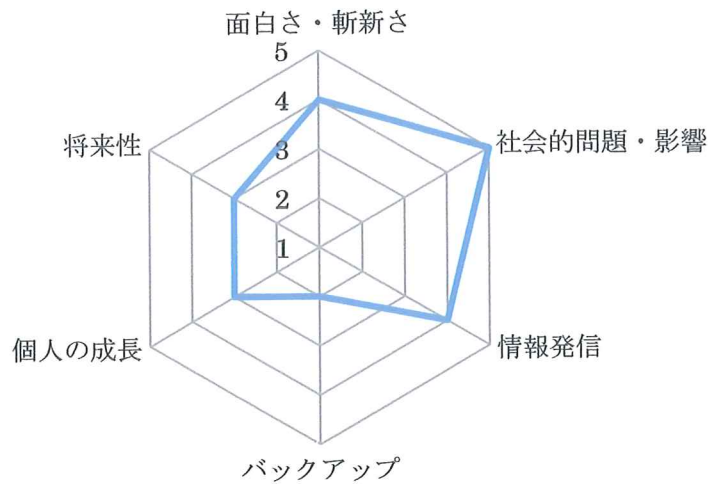


図5 「書道パフォーマンス甲子園」

出所) 筆者作成

・「社会的問題・影響」

書を通じて芸術文化の地域間交流を促進するとともに、紙産業の振興及び地域の活性化を図っている。また映画化のために参加高校が急増し、日本国内に書道ブームを巻き起こすなどの影響を与えたため、評価を5とした。

・「情報発信」

「書道パフォーマンス甲子園」の様子を全国のテレビで放送、映画化され、コンテストの存在を広めたため、評価を4とした。

4. 提案

4.1 「ナショトラ・コンテスト (NTC～なんか楽しいコンテスト～)」の提案

3章におけるレーダーチャートの分析を基に、私たちは「ナショトラ・コンテスト (NTC～なんか楽しいコンテスト～)」(以下、「NTC」)を提案する。また「NTC」には、大きく分けて「いこうよ!ナショトラの森」「ナショトラ・プレゼンまつり」「ナショトラ・論文まつり」「とびたとう!ナショトラの森」の4つのコンテンツを設ける。コンテストの流れは以下の図6である。その詳細に関しても、ひとつずつ述べていきたい。

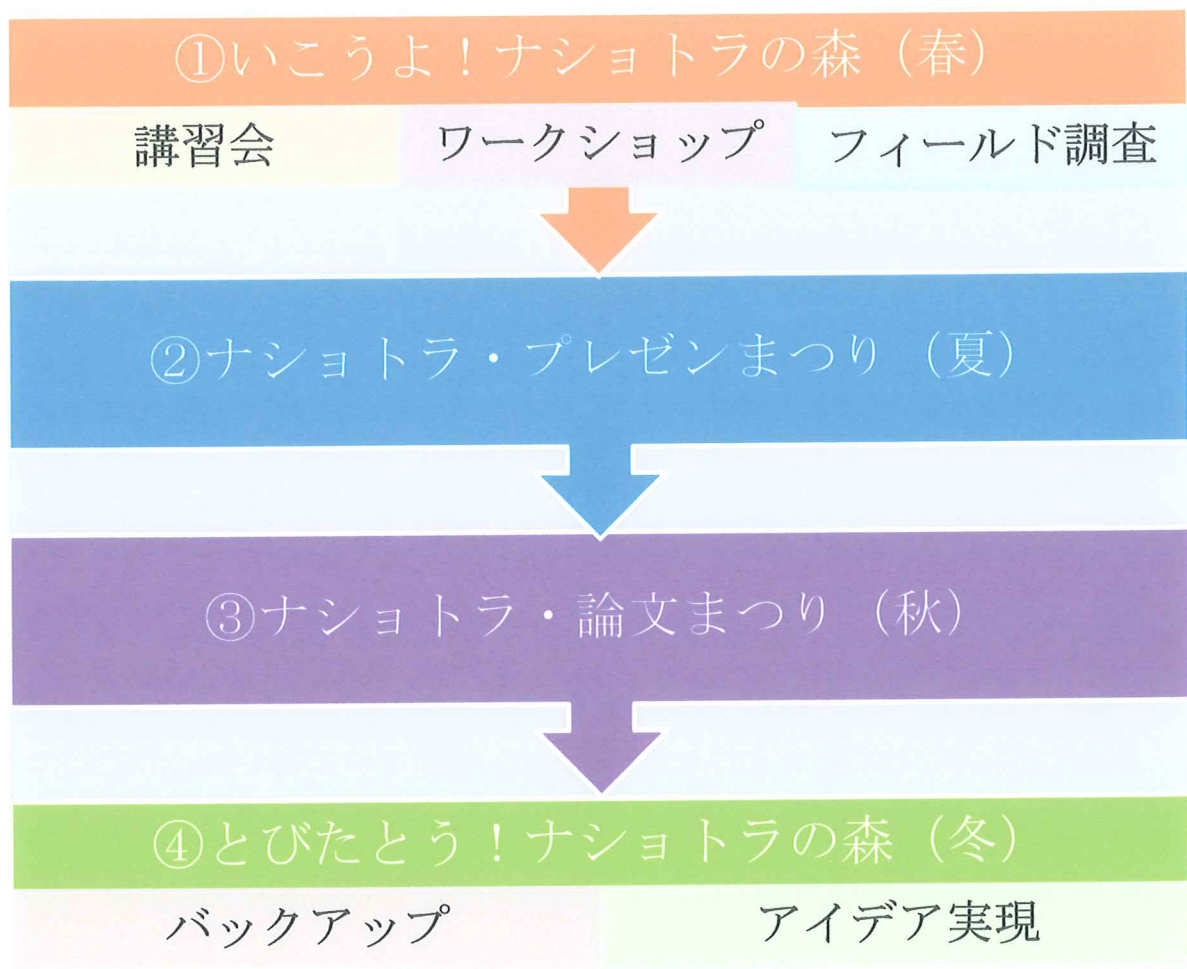


図6 「ナショトラ・コンテスト」の流れ

出所) 筆者作成

① 「いこうよ！ナショトラの森」

事前のバックアップイベントとして「ワークショップ」や「フィールド調査」等を行う「いこうよ！ナショトラの森」を春に開催する。これは、ナショナル・トラスト活動がなされている場所やその活動が必要な地を実際に訪れ、自然に触れる機会を提供するものである。「尾瀬国立公園」を例とした場合、実際に尾瀬の湿原を歩いたり、尾瀬についての講習会を行ったりする。また、そこでは募金活動も行い、その資金をナショナル・トラスト活動の一部とする。

実際にナショナル・トラスト活動がなされている場でその活動を経験することのねらいは、学生アイデアをより現実的なものとすることである。またその土地を保護した人々と交流する場を設けることで、活動に取り組んでいる人々の生の声を聞くことができ、意見交換などを行うことで、普段は聞けない現状を知ることができる。「ワークショップ」は「面白ビジネスアイデアコンテスト」で、「フィールド調査」は「岡山まちの夢学生アイデアコンテスト」で行われており、その様子が図7、図8、図9である。



図7 「面白ビジネスアイデアコンテスト」のワークショップの様子
出所)「面白ビジネスアイデアコンテスト」HP



図8・9 「岡山まちの夢学生アイデアコンテスト」のフィールド調査の様子
出所)「岡山まちの夢学生アイデアコンテスト」HP

② 「ナシヨトラ・プレゼンまつり」

まず、このコンテストは夏に行われる。その対象は、現在の「学生観光論文コンテスト」と同じ学生である。また、その意義、目的は「ナショナル・トラスト活動を促進させること」であり、発表形式はパワーポイント等によるプレゼンテーションである。その内容に関しては、活動を促進させるものであれば特に制限や指定はない。「面白ビジネスアイデアコンテスト」「観光甲子園」などでも、パワーポイントを用いたプレゼンテーションが行われており、このプレゼンテーションにより、アイデアを連想させる力や相手に簡潔に伝える力が養える。またこれによって個人が成長することもできる。その様子が図11、図12である。



図10 「面白ビジネスアイデアコンテスト」のプレゼンテーションの様子
出所)「面白ビジネスアイデアコンテスト」HP



図11 「観光甲子園」のプレゼンテーションの様子
出所)「観光甲子園」HP

③「ナショトラ・論文まつり」

このコンテストは秋に行われ、現在の「学生観光論文コンテスト」を「ナショトラ・論文まつり」として置き換えたものであり、その対象や内容に関しては同じである。

④「とびたとう！ナショトラの森」

「ナショトラ・論文まつり」終了後の冬、優秀な成績を修めた者や高く評価されたアイデアは、実際に協会が活動の中に取り入れ、その実現をバックアップする「とびたとう！ナショトラの森」というものがある。例えば、ツアーによるナショナル・トラスト活動促進のアイデアであれば、実際にそのツアーを主催者側が企画し、人々に提供する。これは、3.4.3でも述べたとおり「観光甲子園」でも行われている。

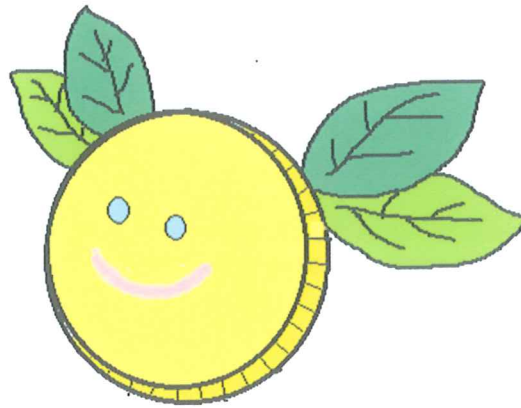


図 12 キャラクターの例

出所) 筆者作成

⑤その他

その他のコンテンツとしては、ナショナル・トラスト活動をより促進させるためのイメージキャラクターを作り、それを人々に定着させてコンテストに親しみを感じてもらおうというものがある。また図 12 のように、「いこうよ！ナショトラの森」の活動にそのキャラクターも参加させることでより面白みが増す。図 12 はキャラクターの例である。

加えて、ホームページにて積極的な情報発信を行い、ポスターやパンフレットをあらゆる場所に貼ることで、そのコンテストをより多くの人に知ってもらうことができる。そして、コンテストがマスコミやメディアに注目されれば、「書道パフォーマンス甲子園」のように、全国的にテレビで放送され、映画化につながり、継続的にコンテストが開催されることになる。

4.3 まとめ

この「NTC」の最終的な目的は、「ナショナル・トラスト活動を促進させること」にある。そこに至るまでには、事前のサポート、プレゼンテーション、論文、そしてバックアップという流れがあり、その段階を踏むにつれてナショナル・トラスト活動について深く考えることや、より質の高いプレゼンテーション、論文を完成させることにもつながる。

また、「NTC」をレーダーチャートに表した場合、「学生観光論文コンテスト」の評価点を残したまま「情報発信」、「バックアップ」、「個人の成長」、「継続性」が改善されるので、現在の「学生観光論文コンテスト」と比較した場合は以下の図 13 のようになる。

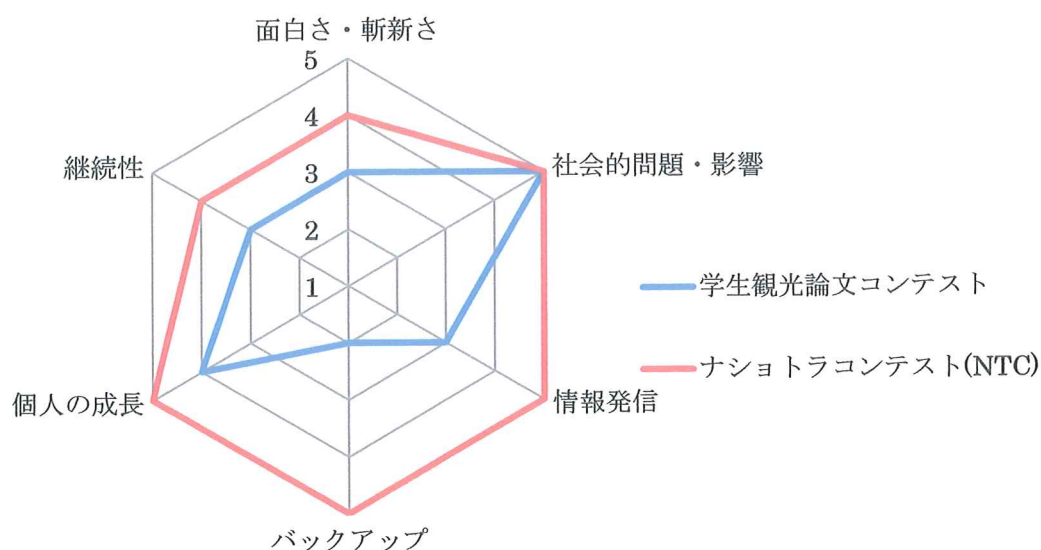


図 13 「学生観光論文コンテスト」と「ナショトラ・コンテスト」の比較

出所) 筆者作成

5. おわりに

本論文では『学生観光論文コンテスト』を包括した新たなコンテストを行うことで、ナショナル・トラスト活動をより促進させることができる」という仮説を立てて立証を行った。そのためにナショナル・トラスト活動や様々なコンテストを考察・分析していった中で、私たちはナショナル・トラスト活動の課題とコンテストの有用性に気づくことができた。

立証にあたっては、「ナショトラ・コンテスト (NTC~なんか楽しいコンテスト~)」の提案をし、ナショナル・トラスト活動の促進につながるような詳細案を提示した。また、「学生観光論文コンテスト」はナショナル・トラスト活動をテーマとして取り上げている唯一のコンテストである。この現在行われているコンテストをさらに有意義なコンテストにしていくことは、ナショナル・トラスト活動のさらなる発展に貢献につながるのではないかという考えに至り、この提案をした次第である。

そして、私たちの提案はナショナル・トラスト活動の促進のための一つの手段となり、観光資源保護へとつながる。

参考資料

公益財団法人日本ナショナル・トラスト HP

公益社団法人日本ナショナル・トラスト協会 HP

環境省 自然環境・生物多様性 『ナショナル・トラストの手引き』

コンテスト 公募 アワード コンクールの情報「登竜門」 ジャパンデザインネット運営 HP

日本ホテル教育センターHP

東京電力「環境とエコへの取り組み 尾瀬カ焔の招待状」
省エネ・証明デザインアワード HP
内閣府 HP 防災ポスターコンクール実施要項
学生のビジネスコンテスト TRIGGER HP
東北応援アプリケーション開発コンテスト HP
ロボットコンテスト HP
リリー・オンコロジー・オン・キャンパス HP
かわさきコンテンツアワード HP
京都文化ベンチャーコンペティション HP
大学対抗交渉コンペティション HP
国際マンガサミット鳥取大会 開催記念 デジタルマンガコンテスト 2012 HP
Android アプリコンテスト 2012 Summer HP
ぐるなびシェフ BEST OF MENU HP
オヤジバンドの殿堂「熱血！オヤジバトル」 HP
ミス日本コンテスト ミス日本公式サイト HP
鳥人間コンテスト HP
夢の賃貸住宅学生コンテスト HP
「試す」applim コンテスト HP
日本パッケージコンテスト HP
フマキラー 虫や植物とふれあうコンテスト HP
岡山まちの夢学生アイデアコンテスト HP
学生CG コンテスト HP
学生アイデアコンテスト 2012 in 那須塩原 HP
書道パフォーマンス甲子園 HP
旅行川柳コンテスト～1 ウィークバカンスキャンペーン～ HP
全国高校生 観光甲子園面白ビジネスコンテスト HP
財務局学生論文コンテスト HP
ecocon2012 全国大学生環境活動コンテスト HP
ATMJ コンテスト～考える 創る 成長する～ HP
ほけんの窓口グループ株式会社「マスコットキャラクター」デザイン募集 HP
瑞穂区マスコットキャラクター HP
WWF ジャパン Tシャツデザインコンテスト HP
小川未明文学賞 HP
FACE 損保ジャパン 美術賞展 HP
バイエルレシピコンテスト富士フィルムフォトコンテスト HP
京都への恋文 HP
ふじのくにユニバーサルデザイン大賞 HP

LOHAS ILLUSTRATION CONTEST 千修イラストレーションコンテスト HP

熱血！高校生販売甲子園 熱血！高校生販売甲子園 HP

小学生ご当地アイデア料理コンテスト HP

(注：HP の URL については省略させていただきます。)

(11,992 文字)